

2173再構築 13

人生は愛と死

エリー

中学生のころ聞いた話。

普通の人には、カッとして殴りあっても、疲れておしまいになる。

しかし、限界を超えて破壊活動が続ける人がいるから、そういう人に絡んではいけない。というものだった。

1対1で争った場合、疲れたり、ばかばかしくなったりして、途中でやめる。ふと我に返る瞬間がくる。

ところが、疲れたら次の人と交代できる組織的な活動は、簡単にはやまない。動けなくなったり、疑問を感じて逆らった場合、その人を排除して、新しい人を入れれば続けていけるから。だから、組織活動は1対1より、長く大きくなる。

組織同様に、コンピューターも疲れを知らない。

一人の人間が、一人の人間を24時間体制で監視することは不可能。しかし、コンピューターなら可能。

人間の場合は、交代して監視することになるから、全員を一斉に監視できないが、コンピューターなら一人1台設置することで可能。

でも、組織は放っておくと機能しなくなるし、コンピューターもウイルスにやられたりする。

ずっと良い状態を保つことはできないが、最悪の状態を維持することも難しい。

ゆるやかか、激しいか、差はあっても、変化はある。

生まれた時、自分を包む組織が、たまたま自分にとって都合のよい環境を与えてくれるものだったなら、反抗する理由がない。

「このままではいけない！」と反対の声をあげる理由がない。

しかし、全体としてみれば、問題を抱えている場合、自分は大丈夫だけど、他人のために何かするだろうか。

特別何もなくても、人間関係を良好に保つことは難しい。

そこに関心が集中して、外に気持ちが向かわない状態を普通だとしよう。

一歩踏み込んで、他人のことに関心を持ったとしよう。

それは組織で行われていることで、自分自身の役割ではないから、他人の仕事をとやかく言うことになる。

もしくは、自分が組織を動かす側になろうとする。

それをするには、具体的にどういうことなんだろう？

わたしには分からない。

既にあるシステム、たとえば、「お金を払ったら、商品が買えます」を理解して、利用することはできる。よりよいものを買う工夫もできる。

しかし、システムそのものを作り直すことはできるだろうか？

わたしには変更の過程を書くことはできなかった。

たとえば、「国全体を保護区に制定して、解放する地域を限定して自由区とする」を「現在の状態」から書き始めて、「そうなった状態」まで書こうとすると、ひどく難しい。

なぜなら、私有地を没収するとか、財産を没収するとか、強制的に移動させるとか、難しい問題が山積みで、どうしていいか分からなかったから。

結局、「放棄された過疎地を再開発する」という衝突が起こらない方向性で落ち着いた。

お話としては、「そうになりました」でいいけど、政治・経済問題として考えた場合、「どうやってそうするのか」は避けられない。

権力を行使する現実的な算段は、わたしには分からなかった。

反対する人は、ずっと反対なわけで、それを「強引に押し進める」ということは、どこかで「強要」しなければならない。

その対立を描くことは、わたしにはできなかった。

反対と声をあげることもしないし、強要することもしないから。

争いを避けて、無難に生きることを選ぶだろう。

だから、ファンタジーであって、現実的提案ではない。

AをBに変える時、レベルに合わせて、いろいろな問題をクリアしていくことになるだろう。

わたしは、全体を決める、「大きな決断をする立場」にはない。

決められたことを、決められたとおりにする中で、どちらでもいい部分にだけ、自分の感覚が採用される、端末のアルバイトの経験しかない。

「お前は身を切るような、重大な問題を決断する立場に立ちたいのか？」と聞かれたら、若いころならYESだった。

自分の思いを実現するためには、権力が必要だと考えていたから。

でも、わたしはそのプレッシャーに耐えられないだろう。

体に負担がかかり過ぎて、起きていられないと思う。

わたし自身も、自分にはできない気がしていたが、他人は、もっとそう思うらしい。

管理されるアルバイトには採用されても、管理するアルバイトには採用されたことがない。

組織の中で出世して、権力を得ることはできなかった。

個人対個人で行う「占い」に関しては、自分の判断を最終結果として、誰にも相談せずに、即断即決できるようになった。

限界はあるが、分かる範囲で精一杯対応して、真剣に答える。

「占い」で責任をとって見たから、「個人の意見として答える占いと違って、組織の一員として振る舞う会社での出世は無理だった」と納得できた。

わたしは、わたし以外になれないから、自分が今、感じていること、考えていることには責任は持てる。

しかし、自分が思ってもないことをかかげられても、それを自分の一部として取り込むことはできない。会社の理念では生きられない。

自分から出てないことは、想像して判断できないから、代わりに判断してもらうしかない。つまり、末端の管理されるアルバイト以上にはなれない。

末端のアルバイトには責任がない。管理され、フォローされているだけだから、何かあったら上司に相談できるし、相談しなければならない。

自営は、そうはいかない。予想外の出来事が起きても、自分で対処しなければならない。

最終的な判断を、自分一人で背負わなければならない。

多くの人は、「これぐらいでいいや」と手を止める。

よいことでも、悪いことでも、突き抜けることができない。

組織に所属され、管理されていれば、無理をして、自分を壊すところまでいくかもしれない。

しかし、自分で自分を管理し、変化に対応し続ける上の立場にある人は、自分に甘くなりがち

。

すると監視の目がゆるんで、「まあいいじゃないか」といい加減に手抜きをする。

義務を果たして、真面目に反対意見を言われても、システムは破たんしない。

しかし、利己的な理由で義務を果たさない人が増えたら、その人にシステムを破壊する意図がなくても、結果的にシステムは破壊される。

やっても、やらなくても、結果が同じなら、やらずに平等な結果だけを手に入れたい、と思う人が増えれば、システムは崩壊する。

だから、自分の利益になることを認める、資本主義経済が生き残った。

しかし、手を抜かずに、不斷の努力を続けて、壁を突き抜け続け、成功を維持し続ける人は少ない。

習慣に従うだけで、現状を見なくなったり、努力を放棄してしまう。

あるいは、「結局、死んでしまうのに、あくせく働いても仕方ない。楽しいことだけしたい！」的な狂乱に向かうかもしれない。

常に、体調に気遣い、動き過ぎないように注意して暮らしているわたしが、何かを成し遂げるのは夢のまた夢。

自分自身に期待をかけることはあきらめた。

好きな歌手を見守ることで、生き続ける意欲を維持している。

そして、元気な時間もあるから、何もしないのも退屈なので、人の何倍もかけて、やっても、やらなくてもいいことを続けている。

お金には全くなならないから、純粹にやっていて楽しいから。趣味。

そうやって、自分の世界に閉じこもって、外の世界に関心を失ったら、ある日、自分にとって都合の悪いシステムに変わっていることに気づくかもしれない。

遠い世界の困難が引き金になって、身近でテロが起きるかもしれない。

それでも、どうしたらいいかと問われたら、現実的な算段はわたしには分からない。

結局、死んでしまうなら、好きなものに囲まれて、辛いことは見ないでいればいいのではないかと、とも思う。

知っても、知らなくても、結果は同じ。どうにもできない。

若いころは、民衆があれだけ苦しんでいたのに、どうして貴族は舞踏会で踊っていたのか、疑問だったが、今なら分かる。

手の届く範囲を良好にすることに精一杯で、それより外のことはどうしていいのか分からなかったのだろう。

その態度が愚かなことも知っている。

システムに守られて逃げ切った人もいたけど、システムが崩壊して全てを失った人もいた。すべては、運なんだろうか。

運に任せたくないが、自分ではできないと思ったら、どうすればいいか考えがあって、たゆまぬ努力をする強い意志もある英雄が、自分のためだけでなく、人々のために、突き抜けた偉業を達成する。

そして、その意志を受け継ぐ人間が次々現れる。
そんな夢を見るのではないだろうか。

でも民主主義の世の中では、それは起こらないだろう。権力の集中を防ぐシステムになっているから。

自分自身がそれになろうとし続けるしかないのかもしれない。

ほとんどの人はできなかつたから、一人に任せることをやめた。

そして、少しずつ、自分が好きなところを引き受けることにした。

その結果、難しく、辛いところは、空白になってしまったのではないだろうか。

一人で全てをやり抜くことは大変だ。

しかし、集団でやり抜こうとしても、やっぱり大変だ。

人々の前では、毅然とした態度で、自分の判断を示す王さまも、考えても分からないことを考え続けて、決定に責任を持つために一人で決めて、苦悩の連続だったのではないか。

「決断」から広がる、表の世界は、わたしには分からない。

しかし、「苦悩」から広がる、裏の世界こそが、占いの領域であり、わたしにできることではないかと思うようになった。

理性を駆使して、状況判断から、行動を選択していると、自分が暴れ出す。

どうにも動けなくなったり、全て無意味に感じたりする。

心を新鮮に保つことは、現実的な決断と切り離して考えられない。

現実を通して、心が動く。

わたしは、理屈で考えて、心を見捨て、無理をして、動けなくなった。
しかし、体が辛くても、やるべきだし、できると思っていた。

きっかけは、病院で注射を受けたことだった。
普通の人には、自分の体の重さを感じることはない。重い時点で既におかしい。
そういわれて、肩に注射を打たれた。

わたしは、初めて体が軽い、という状態を体験して、自分が普通だと思っていた状態が、すでに悪いことを理解した。そして、それは直らない。

それまで、無邪気に、体を鍛えたらよくなるかも、マッサージでよくなるかも、といろいろ試していた。

結果は、よくはなかった。それでも、「そのうちよくなる」という希望は捨ててなかった。
だから、「やればできたかもしれないのに」という気持ちがあった。

そうして、無理をして、誰もが認める「いいこと」を選んでいる時、わたしの心は両極を行ったり来たりして、全く落ち着かなかった。

「できる」と「できない」の間で激しく動き、全てをやろうとするか、すべて投げ出そうとするか、極端だった。

自分の現状を中心にしていなかった。

ある意味、「まあいいか」ができない、変わった人だった。

あきらめるといつまでも悔やまれて、自分で自分を責めていた。

そして、意味のないことや、向かないことまで、なんでも手を出して、肝心なことが疎かだった。

習慣を盾に、考えるのではなく、従わせることをしたなら、上に立つことも少しは楽になるだろう。その代り、発展しない。

管理され、命令される立場で、上手にさぼることが生き抜くコツの世界では、やらないことにそんなに罪悪感を感じないだろう。もともと自分のためではない。

しかし、自分で決める自由を持った今は、やるべきことに押しつぶされて、「まあいいか」ができずに、いつまでも自分を責める人は珍しくない。

むしろ、よくあること。

人の心には、変化の過程というものがあって、飛ばすことはできない。

そして、いつか変わるとしても、「今、現に、そうである」という事実を見ないで、次の話をしても、全く心は動かない。

今がすべてではない。いずれ心は変わるだろう。

それは分かっている。

「そのうち元気になるのだから、そんなに悲しむのはつまらないことだ」と言われたら、確かにその通り。だが、そう思って悲しい気持ちがなくなるわけではない。

そんな風に言われたら、その場は合わせて理性的に振る舞う。

あるいは、相手に言われる前に、自分から、「わたしは大丈夫」と言って、何も言わせないようにする。

そんな関係は、一人よりも孤独だ。ない方がましだ。

そして、一人になって、思いっきり悲しみたい。

自分がどれだけ絶望しているのか、どれだけ苦しいか、本当の気持ちを吐き出すことでしか、救われない心もある。

どうにもならない現実でも、「聞いてくれた」と納得することで、次にすすめる勇気になる。

吐き出してばかりなのも、「大丈夫」と強がって何も言わないのと同じで、うまくいかないらしい。

あるいは、吐きだしてばかりな人には、「今がすべてではない」という言葉は、変化のきっかけになるのかもしれない。

わたしは、強がって無理をし続けて、悲しみでいっぱいだったので、それを口にして、聞いてくれたと感じた時、癒された。

「大丈夫、愛している」と歌うのを聞いて、わたしは「大丈夫なんだ」と思ってしまった。

でも、愛なんて信じられなくて、納得した自分に腹を立ててしまった。

だんだん、愛はあると思えるようになったが、世の中にはあるかもしれないが、「それはわたしの身には起こらない」という最後の抵抗からなかなか抜けられなかった。

きっかけは、誤解されて、怒っている様子だったのを見て、誤解を解こうと自分から働きかけたことだった。

やさしく受け入れてくれた時じゃなくて、不満をあらわした時に、愛はあると感じたのは自分

でも不思議だけど、そこから信じられるようになった。

愛があろうが、なかろうが、体が弱い現実は変わらない。

しかし、愛によって、生きていく勇気は生まれる。

そんなら、自分が受ける側になったらどうなのか。

占い師として対応してどうなのか。

知識が増えたことで、相手の状態に関心が向くようになったけれど、いつやっても対応は難しい。

でも前より、ぼんやりと「目指すべき状態」が感じられるようになった。

静止した状態ではないし、相手によって変わるので、「何」とは言えないけど、「中心」みたいなものはあるよう。

それは多重で一つではない。

いろんな顔を持っていて、すべてが本当という矛盾した存在。

だから、心に関する本は、分かりにくい。

自分の中で、立体像を結ぶしかないらしい。

それを手に入れて、更新し続けることが、大人になるということなのかもしれない。

昔は、常識と呼ばれて、表と裏を包んでいた。

常識は、「現実的にどうであるか」という物質的な状態と、「自分の心がどう反応するか」という精神的な状態が、セットになって生まれるから、立場によって全く変わってくる。

すべての人に共通する、普遍的な常識は、抽象的な状態ではYESと答えられるが、それを具体的な状態に言い換えたらグレーゾーンの判断が求められる。

普遍的で抽象的な判断は教えることができる。一言に要約できるから。

個別で具体的な判断は、どこまでも掘り下げられるので、終わりが無い。

質問に答える形で示すことはできるが、それをあらゆる場合に適応したら失敗する。条件が違うから。

Aさんならできることが、Bさんにできるとは限らない以上、Aさんでうまくいったやり方をBさんにすすめるだけでは終わらない。

Bさんがやってみて、駄目だったところを修正しつつ、やり方を模索することになるだろう。

Aさんのやり方がなければ、Bさんはゼロから試すしかない。

比較対象なしに、全方位的に模索するから、より難しくなるが、全く新しい何かを生み出せるかもしれない。

判断がブレないためには、抽象レベルの答えが必要。

しかし、条件に合わせて、具体的な判断をすることも必要。

抽象的で中身がないとか、具体的だけどバラバラとか、そういう状態はよくない。

どっちも揃ってはじめて機能する。

わたしは、具体的な話の方が得意。

語っている内容の裏には、経験がある。

なかなか抽象化した、要約した一言が出てこない。

別に経験していないのに、頭で考えて、何かを生み出せる人もいるそうだ。

ひらめきの飛翔が起きる。

どちらが得意かは、個性だから、自由に選べない。

しかし、どちらにしる、「まあいいか」と思わず、考え続けるしつこさが求められる。

休んでも、忘れないことだと言われている。

忘れた方が楽なことを、いつまでも求め続ける。

それは、意志の力。

全てを失っても、何度でも立ち上がることができる。

そう信じられるかどうか、カウンセリングの鍵だと言う。

占いもそんな気がする。

自分で答えを出せると信じられないと、つき合い続けることは難しい。

もしも、自分の力ではどうにもならなくて、現実的な判断が世界を悪い方向に向かわせたのなら、それでも希望を失わないように、心を新鮮に保ち続けることに自分の役割を見出すだろう。

死ぬまで生き続けることが、弱くてもできる、唯一のことなのかもしれない。

生きていくことに伴う、いろいろな難しさを、分かった上で、なお楽天的であることは、結構難しい。

このままでは困ることがはっきりしているのに、全てを失うかもしれないのに、何故か今は怖くない。

心配し続けてその時を迎えても、やれることをやって迎えても、結局来る困難なら、今できることをしよう。

そう思ったら、安心できるようになった。

もしかしたら明日死んでしまうかもしれないのに、10年後を心配して、何も手につかないのはもったいないと思う。

それでも時々、どうしようもない問題にぶつかって、怒りの声がぶわーっと湧き上がってくることがある。

たまたまコンサートと重なってしまって、なかなか楽しむことができなかったのだけど、死を歌う曲を聞いているうちに、すーっと心が静まった。

別の曲で出てくる歌詞「人生は愛と死」を実感して、怒りの相手を許す気持ちになれた。

理性だけでは、問題は解決しない。

しかし、理性も必要だ。

教えられるのは理性の方だから、そちらから始めることになる。

経験を積む中で、感情の扱い方を覚えていくのだろう。

ユートピアも、ディストピアも、「まあいいか」と手を抜く心が壊す気がする。

何かを大きく変える強い意志もたまにある。

どっちにも、意味はあると思う。

もちろん、拒否だけでは何も生まない。しかし、やり方を変えざる得ない状況を生み出す。

破壊する人間がいるから、建設の余地が生まれるのかもしれない。

ダイナミックな流れで見れば、どちらにも意味はある。

では、自分はどちらを選ぶかといえば、決められたことに従ってしまう。

破壊するパワーがない。維持する側を選んでいる。

「そんなこと知らない」と拒否できない。

無軌道ではない。

「まだ守っているの！ みんなやってないよ」と言われてやめそう。

みんながやめても、一人だけ守り続けるほど特殊でもない。

普通に含まれる集団の中の、慎重で、自分からは手を出さない、後発タイプ。

勢いに巻き込まれて、変わっていく感じ。

「システムがなかったら生きていけない」と思っているから、はみ出すことを恐れるのだろうと思う。

「新しいシステムに乗り換えること」はできても、「何の予定もないのに、とりあえず悪いものだから反対して壊す」はしない。

無秩序を恐れている。

だから、秩序を考えすぎて、心を見失ってしまう傾向がある。

そんなわたしだからこそ、心を見失うとどうなるのか、体験として知っているのだから、占いやカウンセリングの本に共感するのだと思う。

愛はあたりなかつたりするが、死は全員におとずれる。

もし、物質的な成功だけで、愛が欠けたままなら、死ぬことは恐ろしいだろう。

愛のために、物質的な安定を捨てて、死を選ぶもの極端。

物質的な豊かさと、精神的な豊かさが、ぴったり重なっている時、人生に意味を感じられるのかもしれない。

一人で両方まかなう場合もあるし、二人で補い合っただけまかなう場合もある。

意義があることをするのが男性的な生き方なら、精神的に支えるのが女性的な生き方と言える。

。

どちらが得意かは、人によって違う。性別と一致しない場合もある。

物理的な世話は、意義を果たしている状態だから、精神的な支えとは違う。

お母さんが、弱って動くことができなくなっても、「ただ生きているだけでいい」と思うのは、精神的な支えになっているからだろう。

物理的な世話をしてきたことと無関係ではないが、それだけでは生まれない状態。

わたしにとって今は、BUCK-TICKが精神的な支え。

たぶん、支えがあるから、自分も占う間だけでも支える側になりたいと思うのだろう。